

## 「平成 23 年度座談会」の開催結果について（中間報告）

- 開催目的：村が主催する集落懇談会等では出てこない村民の細かいニーズやご意見等を把握するため、「栄村復興支援機構『結い』」に委託し、気軽に意見等を出してもらえるように、対象者を絞って少人数やグループ単位で座談会を開催する。

### ■ 開催状況（予定）

区分	第 1 回	第 2 回	第 3 回（予定）
対象者	中学生	I ターン者	子育て中のお母さん
開催日時	平成 24 年 1 月 25 日（水） 10:40～12:40	平成 24 年 2 月 26 日（日） 18:00～21:30	平成 24 年 3 月 25 日（日） 13:00～15:00
開催場所	栄中学校	森宮野原駅交流館 2 階	森宮野原駅交流館 2 階
参加人数	15 名	8 名	—

- 内 容：復興計画の基本目標、基本方針・前提（案）をもとに、参加者から復興に向けてのご意見・ご提言等を伺った。

### ■ 主な意見・提言等

#### ◆第 1 回（中学生対象）

##### 【地域活性化に公民館利用】

・公民館を拠点に観光などを行う。例えば、ホームステイや公民館での宿泊体験、山道整備や村の自然学校を村外の人と一緒にやる。また、外国の都市と姉妹都市になるなど、村民と村外の方と一緒に交流ができると良い。

##### 【マスコットキャラクター】

・ご当地マスコットを中心に村を盛り上げる。例えば、そば祭りなどのイベント、CM制作、絵手紙の大会などを開催し、栄村のそばを景品にしたり、マスコットが歌をうたう。村全体の夏祭りを開催し、信州の有名人・芸能人を呼んで話題作りをする。

##### 【インスタントそば】

・栄村のそばを全国に広める。夢は全国進出！ありのままのそばを食べてもらいたいので、乾燥麺ではなく生めん、具材は村の山菜などを使用し、安全安心で健康なものを食べてもらう。同時に、そばの歌を作って宣伝する。まずは、村の人から愛されるように展開していく。

##### 【観光で復興】

・観光をベースに栄村に人を集める。そのために、まずは道路整備が必要。また、大型バスが通れるように整備するだけでなく、除雪に耐えられるように補強をする。ブナ・シラカバを利用し、景観を損なわないように配慮する。次にツアーを行い、栄村のファンを増やす。栄村への I ターン希望者には、空き家を活かして「田舎に泊まろう」をしてもらう。話題作りとして、そばのドライブスルーを作り、村外から人を呼び込む。

## ◆第2回（Iターン者対象）

### 【前提1 安全環境の確保について】

- ・人的な環境は整っているが、通信設備が弱い。

雪おろしを一人で行っていると集落内で必ず誰かが見ている。新聞が2～3日たまると心配して来るなど、人とのつながりでの安全環境はしっかりしているので、孤独死の心配もない。

それよりも、通信環境の整備を優先すべき。村内放送が聞こえない、ラジオも満足に入らない状態では、震災が起きた時に不安である。いざという時の連絡手段を前提1に入れるべき。

- ・プロデュースする人材が必要。
- ・専門家の意見を取り入れるべき。

せっかく信大から連携協定の話があるので、うまく活用してはどうか。

震災で栄村が注目されている今、手を差し伸べてくれる沢山の専門家とつながりを持っておかないと今後必要な時には離れていってしまうのではないか。

- ・行政×村民×学識者のトラスト作りが重要。
- ・動物と人間の共存をもっと深く考えれば、村民の農業に対する意欲が湧くのではないか。

### 【前提2 地域資源の積極的な活用について】

- ・雇用を作る。例えば、薪ストーブを普及させれば、薪割りの仕事ができる。

- ・水の問題。村は簡易水道に頼っているので、震災時に避難生活が延びた。

飲料水の確保と融雪利用のために井戸を掘る。コストは掘るお金と電気代で済む。

- ・「栄村米」ではコメは売れない。各集落でバラつきがあるので、青倉米・野田沢米など限定して付加価値を付ける。そのためには、外部の人を入れて評価してもらう必要がある。

- ・原発への対策も心配。

- ・ペレットストーブや雪の冷熱エネルギーなど、再生可能エネルギーへの取り組みはどうするのか。

- ・プロデュースする人と村民をつなぐコーディネーターが必要。

- ・5年後10年後の農場はどうなるのか、今から考えておくべき。

- ・集落ごとに人口を増やしていかないと、無くなる集落が出てくる。

- ・旧東部小の後利用の問題。住宅になってしまったらどこへ避難すればいいのか。

- ・生活する上での最低限の食料・物資はある。

### 【その他】

- ・普請の負担が大きい。

- ・「雪があるから夢がある」という考え方が必要ではないか。

- ・村民の意識改革も必要だが、今まで築かってきた伝統も守るべき。

受け入れられないものを「変える」ではなく、「添える」意識の共存が必要。

- ・今回を機に、是非Iターン者同士のネットワークを構築したらどうか。